

学力調査結果について

1 概要

【平均正答率】

	国語	算数
泊小学校	76	63
鳥取県	67	61
全国	67.2	62.5

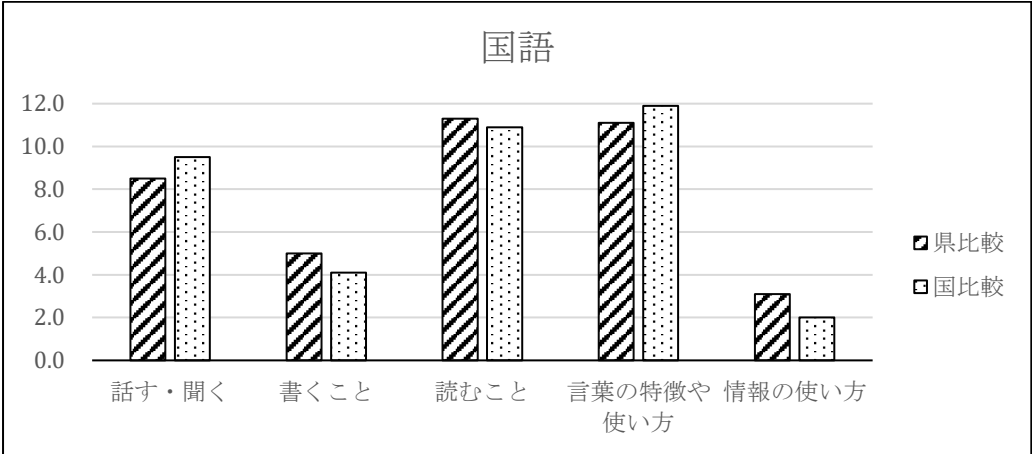
【平均正答数】

	国語 (全14問)	算数 (全16問)
泊小学校	10.7	10.1
鳥取県	9.4	9.8
全国	9.4	10.0

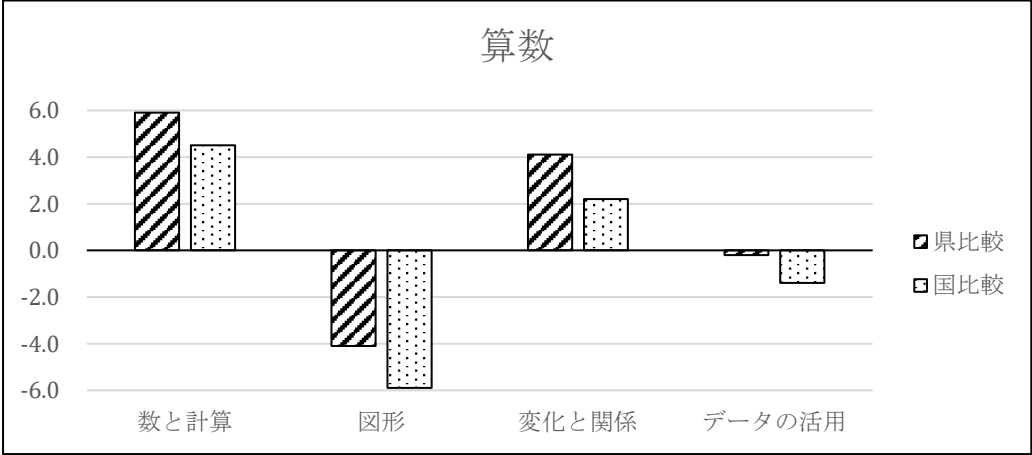
国語、算数ともに、平均正答率、平均正答数では、県平均、全国平均を上回った。

2 領域別正答率比較（単位はポイント。泊小を基準（0 p t）としての県比較、国比較）

【国語】



【算数】



領域別に見ると、国語では、どの領域も、県平均、全国平均を上回った。特に「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」（知識及び技能）「Ｃ読むこと」（思考力・判断力・表現力等）は、大きく上回った。

算数では、「Ａ数と計算」「Ｃ変化と関係」は、県平均、全国平均を上回っているが、「Ｂ図形」「Ｄデータの活用」は、下回った。

３ 問題別正答数と分析（全国比１０ポイント以上差があったもの。ptはポイント）

【国語】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 (一)	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果などと情報との関係について理解している	▲46.2%（－18.5pt） 事象がどのような原因によって起きたのかを把握できず、【カード②】の下線部「雑草の量が増えてきた」を「考え」、【カード③】の下線部「雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」を「事例」と捉えている誤答が多かった。
1 三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（ <u>いがい</u> に雑草が生えてきて）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる	◎76.9%（＋24.1pt） 文脈に合わせて「意外」と正しく書くことができていた。「以外」「似外」という誤答も目立った。
1 四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解している	◎92.3%（＋12.5pt） 【川村さんの文章】が、調査などをして明らかになったことを整理して説明している文章であることを捉えられていた。
2 (三)	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる	◎84.6%（＋22.6pt） 相田さんが、自分にとって重要な言葉を整理していることと、運動と栄養素の働きとを関係付けていることが捉えられていた。
2 四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことを基に、自分ができるようなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる	◎84.6%（＋28.4pt） 運動と食事の両方について分かったことと、分かったことを基にこれから自分にできるようなことを、80字以上100字以内という条件を満たして書けていた。運動と食事の両方について分かったことは書いていたが、自分にできるようなことを書いていないなど条件を満たしていないための誤答があった。

3 二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる	◎92.3% (+22.1pt) 寺田さんと山本さんの二人がどのような思いでボランティアを続けているのかについて分かったことを、【インタビューの様子】の寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げながら、40字以上60字以内で書くことができていた。
--------	---	---	--

【算数】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる	▲76.9% (-11.6pt) (誤)90(比例になってしまっている) 椅子の数について2倍の関係になっている1脚と2脚を用いることはできているが、それに対応する高さ(表の中の適切な組)を用いることができていない。
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる	◎69.2% (+13.7pt) 48脚が4脚の12倍であることを求めること、椅子の数が12倍になると重さも12倍になることなどを用いて、または、1脚当たりの重さを求め、48脚のときの重さを求めることができていた。
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの二位数について、乗法の計算をすることができる	▲69.2% (-11.6pt) (誤)90、200、2050 22000 十を単位とみて計算し、100倍するところを誤って10倍、したり、10のまとまりが20個で200と解答したり、筆算をする際に位を誤って書いたと考えられる。
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる	◎84.6% (+14.3pt) 加法と乗法の混合した式において 5×28 は厚さ5cmの国語辞典28冊分の長さであることを読み取ることができており、()を用いた式において $5 + 4$ は国語辞典1冊の厚さ5cmと漢字辞典1冊の厚さ4cmを合わせた長さであることを読み取ることができていた。

3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる	◎69. 2% (+12. 5pt) 示された並べ方を基に、長さの求め方を式や言葉で表し、一人分のファイルの長さを求め、ファイル23人分の長さを求めること、または、ファイルの種類ごとに23人分の長さを求め、それぞれのファイル23人分の長さの合計を求めることができていた。
3 (3)	① $(151 + 49) \times 3$ と ② $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる	◎84. 6% (+12. 2pt) () を用いた整数の計算や加法と乗法の混合した整数の計算をすることができている。 () を用いた整数の計算はできているが、加法と乗法が混合した計算では、乗法を先に計算せずに左から順に計算している、また、①と②の答えが等しくなることを理解していないと考えられる誤答があった。

4 考察

- ・国語「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」記述問題で、平均正答率が低かった。(本校30. 0%、県平均25. 8%、全国平均26. 7%) 田んぼの様子を記録したカードと、雑草の量を比べたグラフから必要な情報を読み解き、問題文の指示に従って書くことに難しさがあった。無解答はないものの、3つの条件(問題点2つと解決方法)をすべてクリアして書くことができていなかった。普段の学習指導の中で、複数の文章や資料をもとに、「これを伝えたい」という意欲を喚起し、複数の情報を整理し伝える力をつけるとともに条件に合わせて書くこと(○字以上○字以内、～からわかる問題点、～の言葉を使って)に慣れさせていきたい。
- ・算数では、図形領域の平均正答率が低く(本校42. 3%、県平均46. 4%、全国平均48. 2%) 特に「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題(本校正解者2名)「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題(本校正解者2名)が特に低かった。示された三角形の底辺と高さを適切に捉えることができていなかったり(高さがわからないから面積が求められない)、数(式)を使っていなかったりする誤答が多かった。計算ができればいい、問題が解ければいいという指導ではなく、回り道に見えても、子どもの予想や問い(疑問)を大切にしたい授業を展開し、数学的な見方、考え方を養っていきたい。

学習状況調査結果について

1 生活習慣や学習習慣に関する項目について

○「朝食を食べていますか」

- ・本校児童は、「している」「どちらかといえばしている」が92.9%で県(県94.6%、全国93.9%)を下回っている。

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

- ・本校児童は、「している」「どちらかといえばしている」が92.8%で県(91.2%)全国を(90.5%)を上回っている。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という問いに対しては、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童が78.5%で、県(81.5%)全国(81%)で下回っている。家庭と連携して、基本的生活習慣を確立していきたい。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

- ・本校児童は、「よくしている」「ときどきしている」が85.7%で、県(70.5%)全国(70.7%)を上回っている。一方「あまりしていない」「していない」と回答している児童が、14.1%いる。勉強を「自分ごと」にするために、自分で目標や計画を立てたり、自分の学びを振り返る経験をさせるなど、望ましい学習習慣を確立させていく必要がある。

○「学校の授業以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」

- ・本校児童は、「3時間以上」0%、(県6.1%、全国11.8%)「2時間以上3時間未満」7.1%(県14.6%、全国13%)、「1時間以上2時間未満」14.3%、(県36.1%、全国31.5%)の割合が低く、「30分以上1時間未満」57.1%(県30.6%、全国26.9%)の割合が最も高い。また、「まったくしない」25.0%の割合も高い。(県3.6%、全国4.2%)「休日、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに対しては、本校児童は、「4時間以上」「3時間以上4時間未満」とともに0%で、「1時間未満」「まったくしない」が78.6%と割合が高く(県40.2%、全国47.5%)、平日、休日ともに、県平均、全国平均と比べて、圧倒的に家庭学習の時間が少ないことが言える。家庭学習が「宿題」で終わってしまっていると考えられるが、家庭学習に取り組めていない個々の原因を把握し、家庭学習の習慣づくりの必要がある。と同時に、家庭学習についても「何をねらうのか」「どんな力をつけるのか」など内容について検討していく必要がある。

○「学校の授業時間以外、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」

- ・本校は、「10分未満」と回答している割合が最も多く(本校42.9%、県16.6%、全国15.4%)「と30分未満」と合わせると85.7%(県64.1%、全国62.6%)であり、時間的には少ないが、日々の読書習慣はついているといえる。「読書は好きですか」という問いに対しては、「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」85.7%で、県(70.8%)全国(71.8%)を上回っている。また、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか」という問いに対しては、「全く行かない」(本校50.0%、県38.3%、全国40.9%)と回答した児童の割合が最も多いが、「週4回以上」(本校7.1%、県3.9%、全国2.5%)と回答した児童もいる。引き続き、全校で取り組む朝読書の時間を設定して児童の読書習慣を形成するとともに、児童の読書の幅を広げたり、発達段階に合わせた質の高い読書活動をするための読書指導や啓発、「図書館に来たくなるような」環境の工夫を図りたい。また、家庭と連携し、「家読(いえどく)」の推進など、子どもの読書機会の確保に努めたい。

2 自分に関する項目について

○「自分によいところがありますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」100%で、県(84.2%)全国(85.3%)を上回っている。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」100%で、県(93.1%)全国(89.9%)を上回っている。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が100%で、県(92.0%)全国(91.6%)を上回っている。

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」100%で、県(96.7%)全国(95.9%)を上回っている。

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

- ・本校児童は、「よくある」「どちらかといえばあてはまる」100%で、県（90.9%）全国（91.0%）を上回っている。

学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性をみつける、ほめる、違いを認め合うなどの取り組みを引き続き充実していきたい。自分のよさは他者から認められることで自覚される。周囲の人が「よさ」を褒め、自己肯定感や自己効力感、自己有用感を高める関わり方や声かけをしていきたい。また、自己有用感（誰かの役に立っている感覚）が高いと積極的に発言・行動したりでき、人間関係が良好になり、児童の幸福感（ウェルビーイング）につながる。子どもたちのウェルビーイングを高めるためにわかる授業と居心地のよい学級づくりを実践するとともに、たてわり班活動や異学年交流、地域の園児や高齢者との交流など、多様な人との協働的な活動を主体的に行うことを通して、自己有用感の高まりを促したい。

○「将来の夢や目標をもっていますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」が85.7%で、県（60.8%）全国（60.8%）を大きく上回っている。一方で14.2%の児童が「あてはまらない」と回答している。
キャリア教育を通して、児童が自分の長所や好きなことをしっかりと見つめ、未来への夢や将来への期待感をもたせ、自分の生き方について前向きに考える学習の充実を図る。（学級活動（2）（3）や道徳の時間の充実、キャリアカウンセリング）また、スモールステップでの目標を立て、その成果を大切に（一日一日のがんばりを振り返るなど）、同時に最後までやり抜く力を育み、やり遂げることで達成感を味わい、次への目標を自ら設定し、自分の夢や目標の実現のために挑戦し、努力できる子を育てたい。

3 いじめに関する項目や学校生活に関する項目について

○「いじめは、どんな理由があってもないこといけないことだと思いますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」が85.7%で、県（83.3%）全国（82.6%）を上回り、「どちらかといえば当てはまる」を含めると100%となっている。「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童について、そう答えた理由について把握し、どんな理由があってもいじめは許されないこと、同時に、友達を多面的に理解することやトラブル解決の方法などを指導する必要がある。合わせて、児童の心が満たされるようないじめをしない心の環境づくり、仲間づくりを継続していくことが必要である。

4 地域・ふるさとに関する項目について

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」が63.3%で、県（37.7%）全国（24.3%）を大きく上回り、「どちらかといえば当てはまる」を含めると100%となっている。

5 授業・教科の学習等に関する項目について

○「学校で授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」

- ・本校児童は、「3時間以上」「2時間以上3時間未満」「1時間以上2時間未満」0%、「30分以上1時間未満」28.6%で、「全く使っていない」57.1%（県29.2% 全国26.4%）割合が圧倒的に多い。しかし「学習の中でICT機器を使うのは勉強に役立つか」という問いに対して、「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」は100%だった。児童一人一人に配備されたタブレット端末を家庭でも積極的に使っていく必要がある。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」85.7%で、県（81.4%）全国（81.8%）を上回る。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」71.4%で、県（76.4%）全国（78.8%）を下回る。

○「学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができましたか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」64.3%で、県（80.6%）全国（81.9%）を下回る。

「思考力・判断力・表現力」が身につくように、普段の授業の中で、既習学習を生かして見通しをもったり、自分なりの方法で解決したりすることを大切にしたい。また、自分の課題を明確にするために、できたことだけでなく、できなかったことも記述するなど、振り返りを充実させたい。高学年では、予習をし、わかっていることとわからないことを明確にして学習に臨むことにも取り組ませたい。

○「国語の勉強は好きですか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が64.3%で、県（61.3%）全国（61.5%）を上回っている。「国語の授業内容はよくわかりますか」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」85.7%で、県（83.9%）全国（85.0%）を上回っている。

○「算数の勉強は好きですか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が35.7%で、県（59.2%）全国（61.4%）を大きく下回っている。「算数の授業の内容はよく分かりますか」では、78.6%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している。既習学習をもとに問題を解決していく学習展開を実践し、数学的な見方・考え方を育てるとともに、考える楽しさ、解決する喜び、算数学習の楽しさが実感できる算数学習をめざしたい。

○「英語の勉強は好きですか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が71.4%で、県（67.0%）全国（69.3%）を上回っている。「これまで学習以外で英語を使う機会があったか」の問いに対しては、「当てはまらない」と回答した児童の割合が多い。（本校71.4%、県60.9%、全国53.4%）また、「家庭学習（宿題）として、どの程度、ICT機器を使用して、英語の発音を聞いたり、英語を話す練習をしたりしているか」の問いに対して、「行っていない」と回答した児童の割合が圧倒的に高かった。（本校71.4%、県58.2%、全国49.2%）「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」の問いに対して57.1%の児童が肯定的な回答をしている。
英語は好きだが使う機会や体験がないことがいえる。英語のテレビやホームページを見る、ICT機器を利用して他者と英語で交流する（メキシコとの交流）など、英語を使う機会に触れさせたい。また、タブレットを家庭学習（英語）でも積極的に使っていきたい。

今後の取り組みについて

○国語について

- ・説明文教材、物語教材、読書教材などについて、1年生からの系統を意識した指導に努め、内容や指導事項の習得を図る。
- ・説明文教材では、文と文、段落と段落の関係を意識した読み方（接続後に着目した指導）をさせる。
- ・文章と図表やグラフなどを関連付けて自分の考えをまとめる活動をしていく。国語科の学習だけでなく、各教科の学習や日常生活においても充実させていく。
- ・子どもが発言し、考えを伝え合ったり、話し合ったりすることを通して、理解を深める。（指導者がゴールを明確にして授業展開をする。）
- ・デジタル教科書や短冊、文章構成図などを活用し、文の構成を視覚化し、理解を深める。
- ・漢字学習では、ていねいに書き続けて練習することだけでなく、同音の漢字についてイメージや意味を考えながら文の中で扱う学習の工夫をしていく。漢字辞典、国語辞典も活用し、語彙を増やす。習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設け、定着を図る。

○算数について

- ・求め方や理由を話し合う活動では、算数用語、図形を構成する言葉や数、式を正しく用いることを習慣化できるようにする。
- ・「さわる」「歩く」「30%の色ぬり」「1m³をつくる」などの算数的活動を取り入れ、量感を養う。

- ・学習したこと（グラフづくり、二次元の表づくり、データの整理など）を生活の中で活用し、「算数で学習したことが使えた」「自分たちの力で解決できた（達成感）」を味わわせ、算数好きな子どもを育てていく。

○ＩＣＴ機器の活用

- ・「とっとりの授業改革１０の視点・１０のＩＣＴ活用」を活用し、授業の中や家庭学習で、ＩＣＴ機器を積極的に活用していく。

○家庭学習の定着と充実

- ・「何のために宿題や自主学習に取り組むのか、それを通してどんな力が付くのか」など、目的を明確にして児童に伝え、「やらされる」学習から「やりたい」と思える学習に児童の意識を変え、家庭学習の充実と主体的に学ぶ態度を育てる。
- ・取り組み方法や内容（自力でできる内容、量、支援）を具体的に指導し、「自ら学ぶ学習習慣づくり」の定着を図る。高学年では、予習的な家庭学習を取り入れていきたい。
- ・引き続き、「湯梨浜町家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」を活用し、家庭生活に戻った時でも、目標に向かって自己管理し学習に向かうことのできる力を育てる。保護者にも家庭学習に関する情報を積極的に発信していく。

○読書活動の充実

- ・図書館利用を推進し、読書の習慣化を進める。
- ・ブックトークやおすすめの本を紹介し合う活動を充実させ、児童の興味の幅を広げる。（朝読書の時間なども活用していく。）
- ・本だけでなく、新聞などを読む習慣や機会をつくり、習慣化につなげる。
- ・７月の読書教材の学習を充実させるとともに、個々の読書活動につなげていく。

○生活習慣の定着と改善

- ・引き続き、生活アンケート（年３回）を実施し、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん、メディア）の定着を確立させる。自らの生活を見つめ、改善していけるよう、家庭や地域との連携、協力を図る。